

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（％）－悪い（少ない）等の構成比（％）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

- | | | | |
|-------------------|---|--------------|---|
| ○良い：15P以上 | ↑ | ○やや良い：6P～14P | ↗ |
| ○変わらない（普通）：△5P～5P | → | ○悪い：△15P以下 | ↓ |
| ○やや悪い：△6P～△14P | ↘ | | |

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

(1) 製造業 12 <やや良い> ↗

景況感は前期より「悪い」という声が減ったため、DI 値は4P改善し、12Pとなりました。

項目別では、雇用人員が10P悪化した以外は全て改善しましたが、資金繰りはほぼ横ばいで、今期DI 値は依然としてマイナスでした。

☆事業者の主な声☆

- ・円安により造船業界は活況である。基本単価も上がり赤字受注案件が減る方向である。
- ・仕事の受注先の企業が製品を海外に多く出しており、円安の影響もあるためか多く仕事が入ってきており忙しい。
- ・消費税増税後の売上げの落ち込みも回復しつつあり、顧客ニーズに合わせた商品を開発し提供している。
- ・大手企業の業況回復による受注増加基調は続いているが、受注単価上昇の期待は薄く、人件費等の経費増加により、利益確保は厳しい。
- ・全体的に受注量が多いが、発注企業の緊急対応的な受注が多く、本格的な回復感はない。

(2) 建設業 8 <やや良い> ↗

景況感は前期より19P改善し、8Pとなりました。

項目別では、雇用人員は8P悪化し、△41Pとなり依然として人手不足が継続しています。

他の項目は全て前期から改善しましたが、売上げを除く今期DI 値は全てマイナスでした。

☆事業者の主な声☆

- ・消費税増税後の受注減を、徐々に取り戻している。10%増税が先送りとなり受注増を期待している。
- ・増員したことにより施工は工期にスムーズに行えるようになったが、売掛金の回収が長期化する場合があり資金繰りは厳しい。
- ・横須賀市内でも商業ビルなど中規模の建設が増えてきており受注は増えているが、かつて経営環境が厳しい時期に人員削減をした為、現在は小口案件しか受けられない状況である。
- ・原材料の値上がりが今年だけで3回あり利益を圧迫している状況。加えて神奈川県内の新築住宅着工率が低下しており、今後の先行きは明るくない。

(3) 卸・小売業 $\Delta 30$ <悪い>



景況感は、悪かった前期の $\Delta 55$ Pからは、大きく改善しましたが、依然として $\Delta 30$ Pという悪い状況が続いています。

項目別についても、雇用人員以外の項目で改善しているものの、依然として今期DI値はすべてマイナスでした。

☆事業者の主な声☆

- ・ 近隣の同業者との競合に加え、消費増税後の落ち込みが顕著で回復の見込みが立たない。
- ・ 大型店舗との競合により、商店街のシャッター化に拍車がかかっている。
- ・ 酒類販売は、周辺住民の高齢化のため、前年から売上げが減ってきている。
- ・ 売上げは増加したが、仕入れ価格の上昇と雇用を増やしたことから収益は横ばいである。
- ・ 新しく取り組んだネット販売の一般向け販売は、取扱い数量を少量でも対応していることから販売状況は順調で、売上増加に寄与している。

(4) 不動産業 29 <良い>



景況感は10P改善し、29Pになりました。

項目別では、雇用人員が8Pの悪化、資金繰りが前期と横ばいとなった以外、少し改善しました。

☆事業者の主な声☆

- ・ 在庫物件はほぼ計画通りに売却となったため売上増加となった。今後も横須賀市内での多棟数販売が本格化されるため、売上増加が見込まれる。
- ・ 仕入れを行った物件はほぼ計画通り順調に販売されている。小口の1～2棟現場の回転が早い。
- ・ 順調に販売できているが新たな物件の仕入れが急務。今後いかに良質な物件を買い付け売上に結びつけるかが課題となっている。
- ・ 都心部や横浜等では既に地価にかけりが見え始めており、今後不動産投資が冷え込む可能性がある。景気指標のひとつである地価の価格が停滞することで経済全体に及ぼす影響も大きい。

(5) サービス業 $\Delta 13$ <やや悪い>



景況感は前期より15P悪化し、 $\Delta 13$ Pとなりました。

項目別では、収益が横ばいだった以外、少し悪化した結果となりました。

雇用人員については、 $\Delta 28$ Pと相変わらず人手不足の状況が続いています。

☆事業者の主な声☆

- ・ 消費増税後、客単価の減少を痛感している。アベノミクス効果は地方や中小零細企業まで浸透していない。
- ・ 同業種による競争激化により収益悪化が続いている。今後は価格の見直しと人件費等経費削減を実施し、利益確保に努める。
- ・ 消費増税に伴い料金値上げを実施したが、固定客の利用頻度等も変化なく特に影響は見受けられなかった。
- ・ 消費税増税と円安により、原材料の値上げもあったが、価格見直しにより利益の確保ができた。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成26年7～9月の景況感（調査時点 平成26年9月1日）
 今・・・今期 平成26年10～12月の景況感（調査時点 平成26年12月1日）
 次・・・次期 平成27年1～3月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	201	40	46	55	16	44
今期	197	43	39	56	14	45
次期	195	42	39	55	14	45

(単位：社)

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	18	19	15	33	33	26	13	18	13	7	11	5	25	36	29	20	11	13
	変わらず	50	57	61	42	46	41	63	72	74	31	48	64	69	57	71	62	65	65
	悪い(B)	32	24	24	25	21	33	24	10	13	62	41	31	6	7	0	18	24	22
	DI値(A)-(B)	△14	△5	△9	8	12	△7	△11	8	0	△55	△30	△26	19	29	29	2	△13	△9
	今-前、次-今	9	△4		4	△19		19	△8		25	4		10	0		△15	4	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	20	27	20	28	33	27	13	26	15	9	18	18	31	43	36	30	27	16
	変わらず	46	46	51	34	48	46	59	53	62	33	37	43	63	50	57	52	49	52
	悪化(B)	34	27	29	38	19	27	28	21	23	58	45	39	6	7	7	18	24	32
	DI値(A)-(B)	△14	0	△9	△10	14	0	△15	5	△8	△49	△27	△21	25	36	29	12	3	△16
	今-前、次-今	14	△9		24	△14		20	△13		22	6		11	△7		△9	△19	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	15	19	17	25	26	20	11	13	13	5	13	14	25	29	29	20	22	18
	変わらず	51	53	55	42	50	48	56	69	66	39	37	47	69	64	71	62	58	58
	減少(B)	34	28	28	33	24	32	33	18	21	56	50	39	6	7	0	18	20	24
	DI値(A)-(B)	△19	△9	△11	△8	2	△12	△22	△5	△8	△51	△37	△25	19	22	29	2	2	△6
	今-前、次-今	10	△2		10	△14		17	△3		14	12		3	7		0	△8	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	6	3	2	8	7	5	4	0	0	11	4	0	0	0	0	2	2	2
	適正	70	71	74	72	64	73	59	59	62	71	83	87	87	79	79	73	68	68
	少ない(B)	24	26	24	20	29	22	37	41	38	18	13	13	13	21	21	25	30	30
	DI値(A)-(B)	△18	△23	△22	△12	△22	△17	△33	△41	△38	△7	△9	△13	△13	△21	△21	△23	△28	△28
	今-前、次-今	△5	1		△10	5		△8	3		△2	△4		△8	0		△5	0	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	7	10	8	10	10	7	4	10	8	2	7	11	13	7	7	14	13	7
	さほど苦しくない	69	64	66	65	66	73	72	64	64	60	54	51	74	86	79	75	71	75
	苦しい(B)	24	26	26	25	24	20	24	26	28	38	39	38	13	7	14	11	16	18
	DI値(A)-(B)	△17	△16	△18	△15	△14	△13	△20	△16	△20	△36	△32	△27	0	0	△7	3	△3	△11
	今-前、次-今	1	△2		1	1		4	△4		4	5		0	△7		△6	△8	

<参考> 昨年同期と現在の売上比較(回答 151社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	59社	39.1%	31.4%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	41社	27.2%	30.7%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	51社	33.8%	37.9%
DI値(A)-(B)		5.3 P	△6.5 P

